

平成29年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針

原発事故後、7年が経過した現在でも、人的確保等においては依然として改善されず、将来的に運営や経営を困難なものとしているものの、本年度の方針でもある、「本会有一些（社会福祉事業（地域福祉）を行うこと）を理解し、地域と共に快適に過ごせる場の提供・将来への安心感に繋がるサービスを提供して行く。」ため、施設の改修を手掛け、次年度においても事業を継続できるようにしてきた。

近い将来、休止している事業の再開や新たな事業展開ができるように、本年度も施設の維持改善に努める予定である。

また、将来を見据え、法人役員として定期的な理事会・評議員会・監事会を開催し、様々な課題と問題を前向きに解決し、安定した基盤づくりに取り組んできた。

2. 事業内容

・理事会、評議員会、監事会、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年5回、評議員会年2回（定時1回、臨時1回）、監事会年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6人、監事2人）

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第1回	平成29年 5月24日	5	2	報告第1号 平成28年度第7回理事会議事録の確認について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第2号 平成28年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第3号 平成28年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会監事候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会役員等の報酬に関する規程を設けることについて 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会役員の費用弁償に関する規程の廃止について 議案第8号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第9号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について
第2回	6月14日	5	2	報告第1号 平成29年度第1回理事会議事録の確認について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会理事長の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会業務執行理事の選任について 議案第3号 いいたてホームボイラー空調機器改修工事設計業務（基本含）契約の締結について 議案第4号 いいたてホーム汚物焼却炉購入契約の締結について 議案第5号 いいたてホーム汚物焼却炉撤去工事請負契約の締結について
第3回	10月18日	5	2	報告第1号 平成29年度第2回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会評議員候補者の推薦について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福社会評議員選任・解任委員の招集について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福社会理事候補者の推薦について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会評議員の招集について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会経理規程の一部変更について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会文書取扱規程の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会事務専決及び代決規程の一部変更について 議案第8号 いいたてホームボイラー・空調機器改修工事監理業務契約の締結について 議案第9号 いいたてホームボイラー・空調機器改修機械設備工事業務契約の締結について 議案第10号 いいたてホームボイラー・空調機器改修電気設備工事業務契約の締結について
第4回	12月22日	5	2	報告第1号 平成29年度第3回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告 議案第1号 保育所の経営（やまゆり保育所）の廃止について 議案第2号 いいたてホーム照明器具LED化更新工事請負契約の締結について

回数	開催日	出席(人)		内 容
		理事	監事	
第5回	平成30年 3月26日	4	2	報告第1号 平成29年度第4回理事会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 平成29年度特別養護老人ホームいいたてホーム拠点区分会計補正予算について 議案第2号 平成30年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第3号 平成30年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支予算(案)について 議案第4号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について

(2) 評議員会の開催状況(定数7人)

回数	開催日	出席(人)		内 容
		評議員	監事	
定時	平成29年 6月14日	6	2	報告第1号 平成28年度第4回評議員会議事録の確認について 議案第1号 平成28年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 平成28年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会監事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会役員等の報酬に関する規程を設けることについて 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会役員の費用弁償に関する規程の廃止について 議案第7号 社会福祉充実残額の算定結果について
臨時	10月27日	4	2	報告第1号 平成29年度定時評議員会議事録の確認について 報告第2号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について

(3) 監事会の開催状況(監事定数2人)

開催日	出席(人)	内 容
平成29年 5月18日	監事 2名	・平成28年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について ・平成28年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について ・理事会及び評議員会議事録について

(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況(定数3人)

開催日	出席(人)	内 容
平成29年 (3月15日)	3名	議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について
11月6日	3名	議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

・役員研修等

- 関係機関が主催する役員研修会に参加(平成29年度研修一覧参照)
- 県等主催の役員研修に参加(平成29年度研修一覧参照)

## 1. 基本方針について

加齢と共に要介護度が重度となり、昨年まで自立していた方が、今では、全てにサポートを要す状態になっているものの、これまでの生活や個性を尊重しながら、その人自身のペースで過ごして頂けるよう介助に支援に努めてきました。

また、自立支援の継続ケアも、日常生活における自己決定ができるようサポートし、「尊厳ある生活」と心身の力を最大限に発揮した暮らしを送ってもらえるよう、生活そのものをケアしてきました。

### 【月別入居者数】

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数					5						1	3
退去者数			1		1	1			1		2	
入居者数	34	34	34	33	38	37	36	36	36	35	36	37

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
上半期平均(人)	0	1	4.6	12.5	16.8
下半期平均(人)	0	1	2.6	13.1	18.3

### 【要介護度状況】

## 2. 具体的な取り組み内容

### (1) 職員一人ひとりの意識を高めていく

今年度は、各委員会を見直し、介護力向上委員会（食事口腔ケア・排泄褥瘡対策・入浴）、サービス向上委員会（ケアプラン・ユニット）に分けて活動してきました。

再度、専門分野に分け現状のケアの見直しを図ってきました。また、職員が委員会に所属し各家の責任者となることで、ケア会議等において、取り組みや方針を細やかに周知できるようにしてきました。

#### ① 食事・口腔ケア委員会

- ・ 口腔ケアの取り組み（口腔ケア用品の見直し、口腔内のアセスメント等）
- ・ 食前体操（パタカラ体操の継続）
- ・ 食事形態と食器の見直し（厨房職員も同委員会に出席、食事提供の情報交換ができた。）
- ・ 行事食の取り組み（年間行事のメニューについて検討）

#### ② 排泄・褥瘡対策委員会

- ・ 排泄時のプライバシーへの取り組み（排泄交換を周囲に分らないようにする。→ 排泄バックを持ち歩かない処理の仕方）
- ・ 排泄勉強会（専門業者から講師を招き、排泄や安眠、日中の影響について勉強会実施）
- ・ 排泄環境と排泄用品の見直し（排尿量等を1週間測定し、その人に合ったパットの選定に取り組む）→ 排泄用品使用削減にも繋がる。
- ・ 排泄に関しての共通理解（排尿、排便量の記入に、共通のスケール方式を取り入れたことで、職員間で情報の共有が利用者の理解に繋がった。）
- ・ 褥瘡対策（ポジショニングの体験勉強会を行い、個々に合ったポジショニングを得た。）

#### ③ 入浴委員会

- ・ 毎月「お風呂の日」を設け、季節を感じ楽しんで頂いた。
- ・ 6月：菖蒲湯・紫陽花、7月：きこり温泉ツアー、8月：季節にあった花を浮かべて（造花）、9月：入浴剤＋花を浮かべる、10月：マリーゴールドの花の湯、11月：ゆず湯＋

入  
の

浴剤、12月：リンゴ湯、1月：温泉地の入浴剤、2月：雪見風呂（雪だるま）、3月：春  
花の湯等を提供。

- 温泉ツアーを開催（きこりを貸切、入浴と食事を楽しんだ。）
- 入浴介助マニュアルの見直し。
- 浴室環境整備（浴室壁に季節の写真を貼る。普段出来ない所の掃除）

④ ケアプラン委員会

- ケアプランの理解（ケアマネジャーのみでなく、職員もケアプランを学ぶ。）
- ケアマネジメント（利用者の理解を深めるため各ケアチェック等を担当割にした。）
- ケア会議の充実（ケア会議前に利用者の状況を把握し、ケア見直しの視点を共有）
- 認知症の理解（個別ケア対応シートを作成し、周辺症状の理解と関わり方を学ぶ。）
- にやり・ほっとシート（ヒヤリハットの考え方から視野を広げる意識づけに取り組んだ。（セーブするのではなく、できることに視点を置き支援する。））
- ケース記録（日々の記録を、ケアプランと整合性を持つように、支援内容を記録するよう取り組む。）

⑤ ユニット委員会

- ユニットケアの見直しを中心に、委員がユニットケアの勉強を行った。
- 職員からのアンケートを基に、食事・排泄・入浴等の介護、居場所づくり等の生活環境について見直しに取り組んだ。
- 24Hシートの見直し（ケアプラン更新時に合わせ見直し。）

(2) 利用者に寄り添う

高齢化や突然の疾病と共に、身体機能の低下、認知症状の重度化となり、日々の生活が大きく変わることも少なくありませんでした。

日頃のケアで「いつもと違う」と感じる事が重要であり、そのことが利用者の変化の早期発見へと繋がりました。

また、如何に、苦痛なく安楽な生活が送られるか、「食事」「排泄」「入浴」のケアを主に、多職種間の連携を図りながら、寄り添えるケアに取り組んできました。

そして、今年度は6名の利用者を見送りました。長年、ホームで生活を共にし「ケアをさせて頂いた」思いは、どの職員も、「当ホームで看とれて良かった」と。これも、他職種間の連携なしでは行えなかったことだと思います。

(3) 家長会議

各家長が、各家で抱えている問題を共有しつつ、改善できるよう定期的を開催してきました。今年度は、百歳賀寿祝い等の行事もあり、事前準備や余興披露等の協力をしてきた。

また、身体拘束・高齢者虐待については、今まで家長会議で事案にはあったが、定期的な会議と職員への啓発が不十分であったことから、位置づけが足りなかったと反省、次年度は家長会議で十分に検討していきたいと思えます。

【H29 年度家長会議内容】

開催日	内 容
H29.4.5	年間活動計画について、各委員会について、年間行事について、ユニットケアについて、家族会総会について
4.27	会議の持ち方について、委員会について、行事について
6.8	リスクマネジメント（アクシデント・ヒヤリハットの報告）について、業務の見直しについて、行事について（七夕・夏祭り）
7.13	納涼祭について、アクシデント報告書の書き方について、職員会議の発表の仕方について
9.4	敬老会について、監査について（ケースファイルの整理等）、環境（ワックスかけ等）について
10.12	芋煮会について、リスクマネジメント（各家の集計）について、ソフト食と食器について

11.14	監査内容について、身体拘束、高齢者虐待について
12.6	行事（クリスマス・餅つき・新年会）について、ユニットアンケート結果について
H30.1.8	ユニットアンケートに基づいての業務の見直し、レクリエーション内容について、行事について
2.14	行事について、賀寿について、レクリエーションと午後の交流の見直し、今年度の反省と次年度の計画について

#### （４）行事

高齢化と重度化になっても、季節を感じられるよう、その状態に合わせた行事内容に組み替えてきた。また、利用者の移動介助・作業動作、食事介助等についても、自立している方は少なく、利用者一人に対し職員一人が向き合わなくてはならない中でも、普段の生活にメリハリをつけ、“笑顔になって欲しい”と云う願いから積極的に取り組んできました。

月日	主 な 内 容	
H29.4.23 ～25	花見ドライブ	遠出が出来ない利用者を対象に、午後の暖かい日に桜の花見ドライブ。自宅周辺と大雷神社や伊丹沢の復興の桜を見てきました。（36人参加）
4.29	家族会総会 花見昼食会	今年は、19家族の出席があり、総会后、各家で利用者・ご家族・職員が交流。また、厨房手作りの花見弁当で和やかに過ごしました。（各家 全員参加）
5.5	柏餅づくり	端午の節句に昔ながらの風習で柏餅づくり。普段動かさない手でも米粉の中に餡を入れていく作業では器用に丸めていました。その後、蒸した柏餅を嬉しそうに頬張っていました。（西棟ホール 15人参加）
5.15	外食ドライブ	西棟利用者で、体調の良い方は川俣町で買い物を楽しみ、遠出の出来ない方は、4月から開店した「えびす庵」で昼食を楽しみました。お店では、地元の方との交流もありゆっくり寛ぎました。（5人参加）
5.24	外食ドライブ	せせらぎの家の利用者が、川俣町「吟哉」に昼食を目的に出かけました。毎回、「吟哉」では、利用者のために食事スペースを設けて頂き、気兼ねなく食事することができました。（4人参加）
6.3	花火中継観賞	「ふくしまミュージック花火」のライブ中継が、ホーム東棟ホールのスクリーンに映し出され、音と映像、3D等を体感しました。（30人参加）
6.20	外食ドライブ	ぬくもりの家の利用者が、月館の「花工房」に昼食等を目的に出掛けてきました。季節的に花の綺麗な時期であり、散歩をしたり、自分が注文した食事を美味しく頂いていました。（6人参加）
6.24	お風呂の日	入浴委員会で、毎月の26日前後をお風呂の日とし、季節にちなんだ入浴剤を利用し、温泉気分を味わって頂きました。6月は、菖蒲を浮かべ「菖蒲湯」を楽しんで頂きました。（全員参加）
7.7	七夕昼食会	西棟ホールで昼食会を行う。厨房職員が目の前で、天ぷらを揚げ、サラダ風そうめんを作る等、普段、なかなか厨房職員と交流する機会が少ないことからどのように作っているか興味津々のようでした。（全員参加）
7.16	外食ドライブ	だんらんの家の利用者が、村内のセブンイレブンで買い物を楽しみ、村内ドライブ後、4月から再オープンした「きこり」の一室をお借りし、昼食と休憩でリフレッシュしてきました。（4人参加）
7.18	出張販売	福島市の業者がホームへ出張販売。今回で2回目。品物を店同様に展示して頂き、普段、買い物をする機会がない利用者が、夏物を自分で見て選び、思い思いの服を購入していました。
7.25	温泉ツアー	「きこり」でお風呂を楽しむ。当日は土用の丑の日でもあり、厨房手作りの「ひつまぶし弁当」を持参し、お風呂に入りお昼を食べ温泉気分を満喫。（きこりさんには、今回の貸切利用にご協力を頂きました。）（21人参加）
8.18	納涼祭	東棟で納涼祭を行いました。ご家族も20名の参加があり、盆踊りや沢山の豪華な料理を美味しくそうに頬張っていました。また、食後、外で花火を見て、部屋に戻る際、飾り付けた灯籠の道を楽しみながら戻りました。（全員参加）
9.18	ホーム敬老会	西棟ホールで敬老会を行う。「澄美れ会と藤田征人さん」の舞踊や歌、職員の大黒舞やギター演奏等があり、賑やかに祝いができました。（全員参加）
10.29	村文化展に出展	村文化展へ、ひだまりの家と、せせらぎの家の4名の利用者が、手縫いの手提げ袋と貼り絵を製作し出展しました。文化祭当日は、悪天候のため、観に行くことが出来ず残念でした。（村ふれあい交流センター）
11.12	芋煮会・ミ二運動会	玉入れやパンくい競争で軽く汗を流した後、おでん、チャンチャン焼き、とん汁等を食べながら、カラオケで楽しく交流を図りました。（東棟ホール 利用者全員）
12.28	餅つき	年末恒例の餅つき。5升の餅米を臼と杵や、干本杵でつきました。つきあがった餅は、お正月のお供え餅と、昼食に餡子やじゅうねん、納豆、汁餅等にし美味しく頂き

		ました。 （西棟ホール 全員参加）
1.2	新年会	年の初顔合会を開催。新年の挨拶の後は、職員の余興「大黒舞」「腹踊り」「安木節」で盛り上がり、初笑いがありました。（西棟ホール 全員参加）
1.12	だんごさし	今年も色鮮やかにだんごさしを行いました。日頃、手作業をしない方でも昔ながらの行事になると、自然に手が動き上手にだんごをまるめ、ミズノ木に挿しました。（西棟ホール 15名参加）
2.3	豆まき	ご利用者や職員の年女年男で、邪気を払い幸運を呼ぶ豆まきを、午後のティータイムに合わせ行いました。変装した鬼に大笑いしながら元気に豆を投げていました。（各ユニット 全員参加）
2.16	全確保訓練	午前11:00 県下一斉安全確保訓練を実施（全館 全利用者及び職員）
3.4	ひなまつり	西棟ホールにて、ひな壇の前で着物を纏い記念撮影をし、普段とは違った表情が見られました。昼食には、厨房職員がホールで握り寿司（利用者にあったご飯の硬さや大きさを考慮）を握り、目を楽しませて頂き、美味しく頂いていました。
毎週日曜日		手作りおやつで喫茶タイム
毎週木曜日		音楽療法
月1回（月末）		避難訓練を実施

### 3. 一年を振り返って

利用者と馴染みの関係を築きながらも、馴れ過ぎないケアに取り組んできました。勿論、職員間も同様であり、注意し合うことは、職員の意識も高まりケアの向上に繋がりました。

当ホームでは、現在6ユニットで、顔なじみの職員が、起床から就寝まで「家族同様」の関わりをすることを方針としています。

現在、各ユニットの利用者は6～7名ではありますが、要介護4、5の全介助や重度の認知症の方が多く、実際にベッドから車いすへ移乗する際、2人対応の介助を要することや、見守り一つにしても、早番一人体制のケア中は、看護師の協力があってこそケアが成り立っている状況です。

通常のユニットケアを展開するには、日中帯の勤務者が1ユニット3人を必要としていますが、当ホームでは2人の職員体制で日中帯の利用者の生活を支えてきました。

決して、要介護重度の方でもベッド上で寝たきりとはせず、食事の時間・交流の時間には離床し孤独を感じさせないケアに努めています。2人だから「出来ない」の言葉は吐かず、どのように工夫したら、“満足された笑顔が見られるのか”を考え取り組んできました。

しかし、大きな問題点もあります。職員の高齢化です。被災地としての風評なのでしょうか。20代の職員は1名しかおらず、再雇用者が3名で、介護職員の平均年齢49歳は、介護現場での業務は、体力の問題もあり大変な環境でした。そのため、職員一人ひとりが自己管理と、利用者の介助方法の安全を考慮した2人対応が多くなり、1人の利用者に関わる時間が増えてきている状況です。「施設内で老々介護になるね」等の冗談も、現実になりそうな不安は拭いきれません。それでも利用者一人ひとりに寄り添え、笑顔がある「あったかい介護」を提供し来れたと自負しています。

## 1. 生活全般について

「個々の体調に合った環境づくりやケアで、一人ひとりが自分らしく過ごせるよう支援する。」を目標に暮らしが始まりました。

職員の配置替えもあり、ご利用者が困惑しないよう、職員同士話し合い、確認し、統一したケア、より良いケアに努めてきた1年でした。ご利用者から「あっという間だよね～夏がきたと思ったら冬だもんね～」の言葉を思い出します。

6月に自分の生き方に「拘り」をもった方が永眠。意思疎通が難しいながらも、嫌なことは嫌と顔を横に向ける、嬉しい時はニッコリ笑顔。最後まで自分の思いを通した方でした。本人の意思を通してあげられたことで、その人らしく過ごせたのではと思います。

家のご利用者も5名で寂しく感じていたところ、8月に1名の方が入居。意思疎通が難しい方ですが、自分と云うものをしっかり持った99歳。ベッド上で起き上がる、頭と足が逆向きになっている等と活発な様子、食事はスプーンを持って“までい”に食べる様子を見ていると、職員も周りの方々も笑顔になり明るくなります。そして3月に百歳を迎えました。ご家族の方々と一緒に心に残るお祝いも出来たと思います。

また、3月にもう1名の方が入居。顔なじみの関係を築きながら、自分らしい暮らしができるようケアをしていきたいと思います。

生活面では、できること（タオルたたみ、お絞り丸め等）を無理強くないでお願いし、身体や手足が思うように動かないけど“できることがある”“役立っている”と云った気持ちを持って頂くことで自立支援に繋がればと思います。

102歳の方は、縫物が好きだけど少しずつ疲れが見えてきているようです。どの方も当り前のように暮らしていますが、急な体調不良、いつもは出来ていても徐々に難しくなる、突然できなくなる等、いつ何が起きるか分かりません。思い起こすと「あっという間に」過ぎていく日々の中で、ご利用者やご家族の方が「良かったな～、笑ったな～」と、心に残るような暮らしができるよう、家内やホーム内で協力し合っていきたいと思います。

## 2. 食事、排せつ、入浴について

### ① 食事について

口から食べることができる、味わうことができることは楽しみであり喜びです。個々の体調変化や食事摂取状況に応じ随時検討、看護師・栄養士・厨房との連携により、食事を美味しく頂くことができていたと思います。

眠気が強い時、食べたくなさそうな時は、時間をおいて対応し、はっきり目覚めた時に離床して食事を摂ってもらう環境を作りました。口から食べることは喜びですが、今後、本人が苦に感じていないか負担となっていないか配慮した対応をしていきたいと思います。

家料理はできませんでしたが、各行事に参加し季節の料理を味わうことができました。

皆さんで楽しめる雰囲気づくりを大切に、気兼ねなく味わえる機会がより多くできればと思います。

### ② 排泄について

一人ひとりの身体状態を観察し、排泄状況に合ったパットを見直し対応してきました。ま

た、肌の清潔と保湿にも努めることが出来たことで、皮膚トラブルは殆ど見られませんでした。

トイレを利用している方の今後についても、本人の負担とならないよう配慮しながら、快適な排泄が維持できるよう対応していきたいと思います。

今年度、震災前のようにトイレ内に蓋付バケツを設置したことで、排泄バッグを持ち歩く事が少なくなり、消臭対策や周囲の配慮に取り組むことが出来ました。

排泄に関する言葉遣いについては、便意や違和感で頻回にトイレに向かう方に、これも生活リハビリの一つと思うように意識していても、頻回の介助に、つい言葉に出ていました。今後、職員間で声を掛け合いプライバシーに配慮し、言葉遣いに気を付けていきたいと思います。

### ③ 入浴について

個々の身体状況に合った入浴方法を随時話し合い、状態に応じ2人対応の移乗介助等を行う事で、無理な負担を掛けることなく安楽で安全な入浴ができていました。また、入浴後、自分で鏡を見て身だしなみを整えられるように時間をとることもしてきました。

快適に入浴ができるよう、浴室の整理整頓や季節が感じられるような飾りつけ等に努め、また、お風呂の日や温泉ツアーを提供してきたことで、普段とは違う雰囲気を感じて頂けたのではと思います。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

季節のドライブや買い物は、個々の体調や負担を考慮し、限られた方々の参加でしたが、参加された方は、気分転換となり楽しく過ごせたのではないかと思います。

ホーム内の行事は、体調に合わせて、ベッド上だったりはしましたが、殆どの方が参加できて良かったと思います。

ご家族の面会が、少ない方では、行事か誕生会の年1～2回の面会であることから、当人の状況を伝えるのが難しくなっています。今後、面会時に伝えて欲しい事を家内で周知できる体制にし、面会時は手足を止め会話できるように心掛けたいと思います。

レクリエーションは、生活のメリハリになるため、思うように身体を動かせなくとも賑やかな雰囲気を感じる事ができ、気分転換等に繋がる効果があります。今後もレクリエーションの参加目的を理解し、個々に合わせ自由に参加できるようにしていきたいと思います。

季節を感じられる設えや、ゆったりと和める居心地の良い空間づくりに努めてきました。

また、ご利用者が「ほっ」と思える環境づくりは、どのように工夫して行けば良いのか、ゆとりある気持ちで関わる為にはどのようにして行けば良いのかなど、家内で意見やアイデアを出し、今後も話し合いながら取り組んでいきたと思います。

## 平成 29 年度 めくもり家 生活報告書

### 1. 生活全般について

介護スタッフ5名とご利用者7名で「めくもりの家」がスタートをしました。12月に僅か数ヶ月でしたが、生活を共にした方が他界、1つ空き部屋となり寂しさを感じました。

スタッフ一人ひとりが真剣に向き合いながら生活に寄り添い、毎日のケアを通してその人に、今、一番必要なケアは何かをスタッフ同士が意見を交わし、試行錯誤しながら日々のケアを提供することで、自分達も多くの事を学ぶことが出来たと感じています。また、年度後半にはケアプランやチェックシート、24時間シートを活用しながら、プランに沿ったケアに取り組むことが出来たと思います。

## 2. 食事・排泄・入浴について

### ① 食事について

毎日のケアの中から「いつもの感じと違うよね・・・」と感じたときは、個々の状態に合わせた食事内容の検討や対応が出来たと思います。

ある方には、残存機能を活かすため自助具の使用で食事を食べてもらえるようにしてきましたが、皮膚に自助具の一部が当たり擦れるため、皮下出血の原因になることに気づき、小さな柔らかいクッションを作り使用したところ、皮下出血の改善に繋がりました。

また、食事中もコミュニケーションを多く取りながら楽しい雰囲気の中で食事を摂ってもらえるようにしました。

起床時間が遅く、朝食を一緒に取れない方に対しては、本人に合った生活パターンで対応（時間帯による食事量も調整）することで、一日の体調がベストとなっているように感じます。

食生活の変化にともない排泄環境にも影響があることも学びました。

### ② 排泄について

排泄に関しては、季節によって尿量に変化があるため、オムツ・パットの見直しを随時行いました。また、排泄チェック表などを活用し、個々の排便状態を把握しながら、看護師の協力を得、対応等の見直しも行ってきました。

排便スケールを用いた排泄チェックの記入の仕方を先行的に取り入れ、どのようにしたら簡単で見やすい表が出来るのかを全員で意見交換しながら取り組んだことで、共通理解ができたと思います。

夜間時のトイレ対応についても、負担のかからないよう見直しを行いました。

### ③ 入浴について

入浴方法の見直し等を行い、スタッフも利用者もお互いに安全に入浴できるよう、入浴ケアの対応に取り組んできました。

起きている時間が短い方には、入浴日を変更する等、体調に合わせた入浴を行うことが出来ました。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

スタッフ一人ひとりが真剣に向き合いながら毎日のケアを行ってきました。特別なことではなく日々の生活の中から疑問に感じたことを、ケア会議の場で意見を交わし、より良いケアができるよう皆で一丸となって取り組んでいると思います。

レクリエーションや季節の行事にも積極的に、楽しんで参加できたのではないかと思います。

## 1. 生活全般について

入居者6名のユニットですが、毎日のように大きな声で意思表示をされる方や、「わたしが一番よ」とばかりに毎回のように訴える方等、とにかく賑やかなユニットでした。何も言わない、訴えることができない方はついつい後回しになってしまう。これでいいのだろうか。職員間で現状を話し合い、試行錯誤しながら日々変わる対応でした。勿論、個々に合わせるのだから当然でしたが、他のユニットにはない個性がありました。

8月に1名の方が入居。帰宅願望があり不穏になった時の対応、更に追い打ちを掛けるように大声で訴える等、対応は困難なものでした。

10月には職員の配置替えがあり、全員の状態把握が出来ず、業務を消化するだけで、一人ひとりのケアを十分に行えずにいました。しかし、時間が経過するにつれ、良い距離感が保たれ、ケアをスムーズに提供できたことや、落ち着き穏やかな時間を過ごせたように思います。

また、皆さんをもっと満足させてあげたいとの思いで、日々話し合いを持ちました。

少しの時間でも利用者向き合える時間を作るため、業務の見直しや職員間で気さくに「できている・できていない」等を話し合い、ケアをスムーズに提供できるようになってきました。更に、個々の生活パターンを知ることと、意思をしっかりと受け入れることから始め、提案があれば即試行することで、最近笑い声と職員の声掛けの絶えない家となりました。

## 2. 食事・排泄・入浴について

### ① 食事について

個々の食事形態の大きな変動もなく、食べやすいよう食器等を工夫し、自力摂取に努めることで、食を楽しんで頂いていると思います。

喘鳴のある方が「むくんでいるのか・体重が増えたのか」皆で検討し、水分の制限から見直しをしてきた結果、すっかりとされ喘鳴の症状も治まってきており、ベストな状態になるよう調整しています。

また、気分よく食べられるよう、大声を出されてもストレスとならないよう席替えを何度も行う等、その都度対応してきました。

パタカラ体操では、唾液の分泌を促し、ごはんですよと声掛けせずとも、食事の時間を感じとることができ、体操後は「おいしいね」と、笑顔で食べて頂くことが出来たと思います。また、ホーム行事食では、見た目での楽しみ、「はらいっぱいだ」と言われるほど満足することが出来ていたと思います。

### ② 排泄について

尿測を行い勉強会に臨んだことで、個々に合ったパットを選定することができ、快適に過ごして頂くことが出来たと思います。

尿臭のきつい原因を知ることで、消臭剤の使用と排泄交換の回数を増やすことで、尿臭対策に努めることができました。

排便を促すために、朝の水分補給に努め、また、身体に負担がかからない排便コントロールや排便方法を検討し、本人に合った排泄介助を安全に行うことができました。

羞恥心に関しても十分な配慮を行い快便出来るように努めてきました。

委員会の排便スケールにより、内容を統一することで、個々の排便の形状や状態を知ることができ、職員間での統一したケアを提供することができたと思います。

初めての人工肛門でパウチを交換する際にも、不快に感じないように十分心掛けてきました。

### ③ 入浴について

身体に負担のないよう職員2人対応にする等、介助方法を見直し、気持ち良く、また、安全、安心して入浴できるよう努めてきました。

入浴前後のプライバシーに配慮し、リラックスできる環境をつくり、また、委員会で四季折々に入浴の日を設けて頂いた事で、楽しく入浴することができたと思います。

また、個々の肌に合う入浴剤や保湿クリームを使用することで、肌トラブルを未然に防ぐこともできました。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

個々合わせた起床や離床。体調に配慮しながら落ち着いた生活が送れるよう努めてきました。

また、精神面でのケアも重視し、本人の思いや意思をくみ取り、緩和できるよう努めてきました。

個々の身体拘縮対策として、ポジショニングを常に工夫し、不快にならないよう対応してきました。

一人ひとりに関わりが出来るよう、早番が1対1で一緒に過ごす時間を設けたことで、業務に追われ急がされた気持ちや精神面でも、落ち着きを保つことができたのではないかと思います。今後、「いま」できる事を無理なく出来るよう、職員間で統一したケアに心掛けていきたいと思います。

## 4. 行事の取り組みについて

誕生会では、遠方から来られたご家族の方との誕生会や、入居者同士の合同誕生会、家内の誕生会と様々でしたが、祝いの歌や花笠音頭に合わせた踊りを行う等、楽しく祝うことが出来ました。

また、出席できなかった家族の代わりに、職員が盛り上げ、「こんなに立派にしてもらって」と泣きながら喜んで頂いたご利用者に感激しました。

避難中にも関わらず、自宅で誕生会を行って頂いた方は、とても懐かしかったのか、帰所されたときは良い表情をされていました。

ホーム行事では、毎月のように季節に合わせた行事や交流があり、殆どの方が楽しく参加することが出来ました。また、ご家族の方が出席された行事では、一緒に楽しく過ごされたためか、その笑みや光景に、私たち職員もほっとして感動を受けることができました。

## 1. 生活全般について

今年度の家目標は、「温かい雰囲気、穏やかに安らぎに満ちた生活を送って頂く」を掲げ、ご利用者6名で生活を送ってきましたが、2月に1名の方が亡くなり、そのご家族の方より、「褥瘡にもならず綺麗な身体で最期を迎えられ有り難うございました。」とのお言葉も頂き、今までの努力が報われたように思います。

我が家では、朝のラジオ体操から始まり、レクリエーション、食前体操と心身の機能維持に努めてきました。ベッド上での生活が長くなる方には、居室で音楽を聴いて頂いたり、経管栄養をされる時は、フロアで皆さんと一緒に過ごして頂き、孤独にならない環境作りにも気を配ってきました。また、足の血行不良や浮腫みのある方には、足浴やメドマーを施行し、悪化防止にも努めてきました。

8月に1名の方が入居され、初めの頃は環境や職員に慣れるまで不安そうで、夜間不眠の昼夜逆転の状況でした。そのような時、看護師や日勤者、夜勤者と情報を共有し、日中の手作業や生活を見直すことで、次第に夜間、安眠できるようになりました。また、ご家族の面会時に、不安となっている気持ちを聞き出し、それをクリアすることで次第に生活にも慣れてきました。ある時、家族の方に持参して頂いたアルバムを、毎日メドマーをしながらそのアルバムを見ることで、不安の解消にも繋がり、少しずつではありますが信頼関係も築けたように思います。

長い間、身体に湿疹が出来ていた方のケアとしては、毎朝身体を拭き軟膏を塗布し、下着も替え、少しでも快適な環境で生活が送れるよう取り組みをしてきました。結果、湿疹は消え、予防として現在も毎朝継続しています。

我が家の方々は、排尿困難な方や顔や足に浮腫が見られる方がいるため、個々に合わせ連日の体重測定を行うなど、体調の変化を掴むことにも努めてきました。

また、様々な拘りや執着が見られる方には、職員もその思いに追い付けない時が多々ありましたが、その都度、職員間で話し合い、困難な時は、看護師や他職種のアドバイスをすることで、本人に合わせたケアを行うことが出来たと思います。

ホーム全体の「花見会食（外で）、七夕会、温泉ツアー（きこりへ）、納涼祭、敬老会、紅葉狩り、ミニ運動会&芋煮会、クリスマス会、餅つき会、新年会、団子さし、節分（豆まき）、ひな祭り」等、年間行事に楽しく参加することができたと思います。

その都度、皆さんの沢山の笑顔を見る事が出来、楽しく過ごすことが出来ました。

## 2. 食事、排泄、入浴について

### ① 食事について

「口から食べること」の大切さを念頭に置き、食前の「パ・タ・カ・ラ」体操は、職員同士協力しながら、先頭となり声を出すことで、皆さんも声を出していました。今後も、口から美味しく食べられる環境作りに努めて行きたいと思います。

ソフト食は見栄えもよく目でも楽しめていた様子でしたが、何の料理か見た目で見えないため、一人ひとりに配膳する時に説明する事を心掛けてきました。

食事環境については、看護師、栄養士との情報を共有し、食事変更が起きないように体調管理に努めてきました。

## ② 排泄について

今年度は、プライバシーを重視する目的で、各トイレやパット専用の引き出しに、その日に使用する清拭タオルと洗浄ボトルをストックし、トイレには、汚物入れのバケツを置くことで、手ぶらで入室し排泄交換をする事が出来、目的は概ねクリアできたと思います。

また、トイレでの排泄に重点を置くと共に、排泄交換時は、洗浄やワセリンを塗布し皮膚の保護に努め、併せて皮膚トラブルや臭いの軽減を図るため陰部洗浄するなど、衛生面にも気を付け、個々の尿量に合ったパットを随時見直してきました。

## ③ 入浴について

高齢化・重度化により皮膚も弱くなってきていることから、入浴介助には普段以上に、皮膚トラブル予防に努めてきました。特に皮膚が弱い方に対しては、慎重に洗身や着脱をするように心掛けましたが、それでも内出血が出来てしまうこともあったことから、写真付きのマニュアルを準備し、皆さんに注意喚起を行ってきました。

今後も安全で快適な入浴が出来るよう、変更があった場合は、アセスメントシートにもしっかり記入し、誰が見ても分かるようにしたいと思います。

スキンケア対策としては、個々に合ったボディーソープ、入浴剤、ローション、ワセリンを使用したところ肌の潤いを保つことができました。また、入浴前にオイル等を塗り、洗髪をする事で老人性脂漏性湿疹も予防できました。

入浴委員会の計画で、毎月の「お風呂の日」には、色々な装飾や趣向を凝らした季節を感じられる入浴を提供して頂けたことで、楽しい入浴ができたのではないかなと思います。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

皆さんご高齢ではありますが、5月に外食ドライブとして、川俣に行って来ました。楽しんで品物を選び買い物をする事で、気分転換にもなったようでした。

また、入居者が気兼ねなく過ごせる居場所作りにも力を入れてきました。

利用者の作品を村の文化展に出展するため、ちぎり絵を完成までサポートしてきました。最近、細かな作業が困難になってきた方が多くなりましたが、その中でも出来ることを大切に、充実した生活が送れるよう工夫していきたいと思います。

認知症の進行が少しずつ見受けられる方に対しては、好みの歌のCDを作り、毎日聴いて頂く事で、歌を忘れることがなく、大きな声で歌えることで活気が出てきています。

経管栄養の方には、口腔内も念入りにケアし、口腔内の乾燥予防として、オイル等を使用する等、安全に流入出来る環境作りに努めてきました。

家会議では、意見を出し合い最善のケアを模索し、試行錯誤してケアに繋げて来ました。また、申し送りも徹底してきました。

年々高齢化、重度化が進みますが、それでも出来る事を大切に、毎日同じ冗談を言われる方の話も受け入れ、共に笑い、安らいで和やかに過ごして頂ける環境作りに努めて行きたいと思います。

## 1. 生活全般について

ベッド上で過ごされる方が昨年度より少なく、フロアにて全員一緒に食事やティータイムを楽しみ、レクリエーションにも全員で参加することが出来ました。また、お話が好きな方ばかりなので、しっかりとコミュニケーションをとる事により、益々会話が盛んになり、自分の考えを伝える様子も見られました。

今後も、気遣いの出来る寄り添ったケアを目指し、身体機能低下や認知症の進行予防に努めたいと思います。

我が家では、1名の方を見送りましたが、2名の入居者を迎えることが出来ました。

## 2. 食事、排せつ、入浴について

### ① 食事について

健康診断の結果に基づいて、看護師・管理栄養士・厨房と話し合い、個々に合った食事内容を提供することが出来ました。また、体調変化の著しい方に対しても、その日の体調に合わせて食事形態を見直し、最後まで「口から食べられる」ケアを提供してきました。

また、食前体操を通し、言葉の少なかった方も職員の声掛けにより、他の方と一緒に声を発したり、頬のマッサージ等も行うなど、唾液の分泌も促す事が出来ました。

口腔ケアについては、食事を終えた後に、仕上げを職員が行うことにより、口臭・ただれ等もなく良い状態を維持する事が出来ました。

食べる事がなかなか出来ない方にも、動作や声掛けを工夫し食べて頂きました。また、水分を取るのが難しい方には、お茶を食前・食後に半分ずつ提供することにより無理なく飲んで頂く事が出来ました。

食事制限のある方に対しては、もっと家料理の内容を工夫し提供出来れば良かったと思いました。

### ② 排泄について

「飲む・出す」を目標に、日々個々に合ったケアを取り入れてきました。結果、トイレでの排便・排尿もスムーズに促すことが出来たと共に、関節痛があった方の緩和にも繋がりました。

また、個々の尿・便の量、排泄臭に合わせたパットの選定や、尿量に応じ交換時間を変更することにより、皮膚トラブルを防げ、不快感も与えないよう努めてきました。

尿臭対策では、芳香剤・消臭スプレー・洗浄等を行い軽減に努めましたが、尿臭が強い場合の対応は、まだ課題であり今後も話し合い検討したいと思います。

### ③ 入浴について

入浴に抵抗ある方もいるため、浴室で快適にして頂くため、入浴前に室温や湯温の調節を行い、また、馴染みの音楽を流す等の精神面のケアも重視してきました。

新しく入居された方の入浴方法や、終末期を迎えている方の入浴に関しては、看護師、他のユニット職員の協力も得、ゆったりと入浴して頂くよう心掛けてきました。

### 3. 家内のユニットの取り組みについて

#### ① センサーマットについて

日中、センサーマット使用していた方々が以前より落ち着かれたのと、センサーマットに頼らず見守り重視のケアに切り替え、センサーマットを外す事が出来ました。これからも見守りを重視したケアに努めていきたいと思えます。

#### ② 日中の過ごし方について

車椅子に一日中座って過ごされる事がないよう、ベッド上でメドマー施行やソファーに座って頂くようにしています。また、昼食時には椅子に座って食事される方もいます。今後も個々に合った生活スタイルを見つけ、ケアに努めたいと思えます。

冬季は程よい陽が差し込むため、日光浴をしながらのティータイムや、手・足のマッサージを行うことができました。

#### ③ 皮膚トラブル予防について

手の拘縮により、掌の乾燥目的で綿手袋装着している方に関しては、お茶の葉を握って頂く工夫により、匂い・湿り気を除くことが出来ました。今後も継続して行きたいと思えます。

#### ④ フロア環境について

個々の行動内容に合わせ、その都度環境を変え対応してきました。また、冬期は空気が乾燥するため、観葉植物等でフロア内の湿度を保つように努めたり、長足炬燵を利用し、暖と雰囲気を楽しんで頂きました。

## 1. 生活全般について

「ご利用者を人生の先輩として敬い、暮らして頂き、ご利用者の目線で、物事を優先に考え、最良のケアに努める。」を念頭に一年間生活を共にしてきました。

敬いの部分では、言葉遣いや表現に少し問題が感じられたが、暮らしの中では、笑顔が見たい、言葉が聞きたい、目を開けて欲しいとの一心で、声掛けや触れ合いの時間を多く作って来ました。

そのような中で、こもれびの主の様な存在だった方が「まんまなんてくわね」「あ〜」などと、体と声は大きいものの甘えん坊で、その反面、他界される数日前まで離床し食事を摂っていた、とても頑張り屋さんでした。

また、ある方は、いつも笑顔で、最後まで「痛い、苦しい」などの弱音を吐くこともなく、馬券を握りしめてのテレビ観戦や、「ヘビがいる」と子供のようにしゃぐ姿は私達を和ませてくれる存在でしたが2月に永眠されました。

ある方は、楽しい事や綺麗な花、可愛い動物のぬいぐるみが大好きで、肌身離さずの状態でした。「そんな小さな目で見えるの？」と聞くと「あ、見える。」と顎の上げる動作が印象的で、私達に頑張る力を下さっています。

全体的には、体調に合わせベッドで移動する方が多くなり、快適に過ごせるようフロア内の設えや居室の環境整備、個々に合わせた手作りの介護用品など、「誰かがやるであろう」ではなく「利用者の為に」自ら行動する職員の姿勢がありました。

毎日の暮らしのなかで、レクや外出参加の機会が減りつつあるため、季節行事には全員参加することで気分転換を図る事が出来たと思います。

2月に新しい入居者が加わり、この方はお話や歌が好きな方で、フロア内に民謡や演歌が響き、こもれびの家の特徴が「穏やか」から「賑やか」に変わりつつあることから、「あそこの家はいつも楽しそうだね」と思って頂けるような暮らしにして行きたいと思います。

## 2. 食事・排泄・入浴について

### ① 食事について

「食」という自然の流れで普通に行われている行為が、「口から食べる事って難しい」と改めて考えさせられた年でした。

食欲が湧くような盛り付けの工夫や食事形態の見直し、個々の嗜好を知り、また、食べたいが体調により食べられない方に対しては、栄養飲料の氷を作り、食べられる時に食べて頂き、摂取量が少ない方には、栄養飲料を取り入れたり、他にも「何だったら・・・この硬さだったら・・・食べられるんじゃない」と他職間で何度も話し合い取り組んで来ました。

美味しい物を口にした時の笑顔が私達の力になってきました。

今後も笑顔が絶えない楽しい食事の場を提供出来ればと思います。

### ② 排泄について

職員の言葉遣いとプライバシーが一番重視されるケアです。

以前は「あ〜いっぱい出た」「便所さ行く」等、他の方が耳にしたら防ぎたくなる言葉が多々聞かれていましたが、今年度は各自言葉を選んで会話しているように感じました。

そのような中で、ご利用者から「・・・出る」は、その場で聞き直す事が出来ず、居室に移動してから聞き直した事がありました。2人対応でのトイレ介助に「出だ〜」の言葉、嬉しくもあり「そんなに大きな声で」と心の声ができる。恥ずかしい言葉だが出て良かったとの思いが強いようにも感じた。

排泄勉強会により、個々の排泄パターンがより把握でき、パットの選定や介助内容に繋げる事が出来良かったと思います。今後も快適に過ごす事が出来るよう随時見直し、悪化防止に繋げていけたらと思います。

### ③ 入浴について

ゆったりとした時間の中で、音楽を聴きながら「ゆず湯」や「リンゴ湯」、「菖蒲湯」、「雪だるま」と、様々な入浴剤の工夫があり、楽しくもびっくりした面もあったのではないかと思います。

入浴形態についても、安心・安全で入浴が出来るよう互いに意見を出し合い、体調に合わせ、他家の協力を得て行う事が出来ました。また、衣類着脱の時間もゆったりとした時間の中で行う事が出来ないだろうかとの思いから、退浴後、居室で楽しい会話を交えながら、ゆっくりと衣類を身に着けてあげる事にしました。

また、皮膚状態に合わせたボディシャンプーや入浴剤、保湿剤を使用し皮膚トラブルを未然に防ぐ事も出来、今後も継続して行きたいと思います。

## 3. 家内ユニットの取り組みについて

「個々の生活を大切に、その家らしい生活を送る」ことについては、カーテンはいつ開けるのか。起床時間は皆と一緒で良かったのか。などの戸惑いや、また、朝だから、朝食の時間だから起こそう、起きましようねの流れで来たように感じます。

どこの家でも行っているように、一人ひとりと向き合う時間を大切に、また、アンケート調査にもあったように、自分だったらどのような暮らしをしたいか、どうして欲しいかをその人の立場になって考え、行動し、羞恥心や言葉遣いにも配慮しながら、今日一日全員が笑顔で迎えられるようにして来ました。

業務については、個別ケアを大切にしながらも、空いた時間を介助以外の業務にあて、「今これをやっておけば後で楽になる」との気持ちで行ってきたように感じます。

各家独自の家庭料理に関しては、補助食品を摂られている方が多く「何だったら食べられるだろう」と考えているうちに季節が変わってしまった感じです。

手先を使ったもの作りに関しても、作業動作が難しい方が多く、ユニットケアの理想とは難しい事を改めて感じました。

自分の家の方は他のどこよりも可愛い、可愛いからこそ、出来る事はやってあげたい気持ちを大切に、個々の生活を大切にしながら、共に歩んで行けたらと考えています。